

課題

- 高速バスや鉄道などの運行により、市外への移動手段は確保されているものの、市内拠点間の移動は自家用車での移動が主となっている
- 水郷潮来バスターミナルと道の駅「いたこ」は約 1 km の距離にあるものの連携が弱いため、拠点間を連絡する移動手段の確立により、交通結節点と地域交流拠点一体の活用が期待できる

推進体制

地方公共団体
潮来市・茨城県・
茨城県警察本部

**潮来市
未来技術
地域実装協議会**

民間事業者
道の駅いたこ（株いたこ）・
関東鉄道（株）・
（株）鹿島アントラーズFC・
ヤマハ発動機（株）

大学
東京理科大学

国
内閣府・警察庁・総務省・
国土交通省

現地支援責任者
(関東地方整備局)

ハンズオン支援

課題解決に向けた取組

地域内の異拠点間を連携する自動運転サービス社会実装

- 拠点間の自動運転サービスによる連結手段を確保し、空間的に少し離れた交通結節点と地域交流拠点を 1 つの拠点として機能強化を図ることにより、観光客の増加や地元の雇用促進を含めた地域活性化を目指す
- ・拠点間における**自動運転車両**の実証実験
- ・**自動運転**の導入に向けたワークショップを開催し、地域住民及び来訪者のニーズを整理

(写真：潮来市提供)

2021年度の
主な取組

- 「道の駅いたこ」（平成30年度に重点道の駅に選定）及び「水郷潮来バスターミナル」とその周辺を一体的に整備し、地域拠点としての機能強化を図ることを目的に、2 拠点を結ぶ自動運転サービスの走行実験を実施（令和4年2月21日（月）～26日（土））

取組内容

(写真・図：潮来市提供)

潮来市自動運転サービス走行実験（2022年2月21日～2月26日）

- 「道の駅いたこ」（平成30年度に重点道の駅に選定）及び「水郷潮来バスターミナル」とその周辺を一体的に整備し、地域拠点としての機能強化を図ることを目的に、2拠点を結ぶ自動運転サービスの走行実験を実施
- 道の駅いたこ発着の往復ルートにより、6日間で約120名が体験乗車
- 走行経路上の障害物を検知し、一旦停止、手動による回避を行うほか、歩行者・自転車を回避するデモンストレーションによる検証を実施

走行経路

使用車両
(電磁誘導タイプ)

走行実験の様子

